

**殺菌剤**

**カーニバル<sup>®</sup>水和剤**

ジメトモルフ…………… 20.0%  
TPN …………… 50.0%

種類名/ジメトモルフ・TPN水和剤  
農林水産省登録/第24227号  
毒性/普通物\*  
有効年限/5年  
包装/500g×20

**特 長**

- 幅広い殺菌スペクトラムを有するTPNと、べと病、疫病に特異的な効果を発揮するジメトモルフの混合剤です。
- 浸透性を持つジメトモルフの含有により、べと病、疫病に優れた予防効果と治療の効果を発揮します。
- 2つの異なる作用機作の有効成分を組み合わせることで、耐性菌の発達リスクが低減されると考えられます。

**適用病害と使用方法**

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
ば れ い し ょ	疫病 夏疫病	1000倍	100～300 ℓ	収穫7日前まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 5回	散布
な す	うどんこ病 すすかび病 灰色かび病 褐色腐敗病	1500倍			本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 4回	
ト マ ト	疫病 灰色かび病 葉かび病 うどんこ病	1000倍		収穫前日まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 6回 [土壌灌注は2回、散布、 常温煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射は 合計4回]	
ミニトマト	斑点病				本剤 2回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 2回	
き ゅ う り	炭そ病 うどんこ病 褐斑病 べと病				本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 14回 [土壌灌注は2回、散布、 常温煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射は 合計12回]	
か ほ ち ゃ	うどんこ病 べと病	1500倍		収穫7日前まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 3回	
キ ャ ベ ツ	べと病	1000倍		収穫14日前まで	本剤 2回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 3回 [は種又は定植前の土 壤混和は1回、散布、 無人航空機散布及び エアゾル剤の噴射は 合計2回]	

(つづく)

作物名	適用病害名	希釈倍数	10a当り 使用液量	使用時期	総使用回数*	使用方法
はくさい	べと病 黒斑病 白斑病	1000倍	100～300ℓ	収穫7日前まで	本剤 2回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 3回 〔は種又は定植前の土 壤混和は1回、散布 及び無人航空機散布 は合計2回〕	散布
ねぎ	さび病 黒斑病 べと病			収穫14日前まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 4回 〔土壌灌注は1回、散布 及び無人航空機散布 は合計3回〕	
たまねぎ	べと病 灰色かび病 白色疫病			収穫7日前まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 6回	
メロン	うどんこ病 べと病 つる枯病	1500倍		収穫3日前まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回	
すいか	つる枯病 炭そ病			収穫7日前まで	TPN剤 5回	
レタス	べと病 すそ枯病			収穫14日前まで	本剤 3回 ジメトモルフ剤 3回 TPN剤 5回 〔土壌灌注は2回、散布 及び無人航空機散布 は合計3回〕	

## 使用にあたって

### ■使用上の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
- 本剤は茎葉部からの吸収移行性およびガス化による効果はないので、散布むらのないよう均一に散布してください。
- 本剤は予防効果が主体で治療効果は弱いので散布時期を失することなく処理してください。
- 連続使用は耐性菌出現のおそれがあるので、なるべく連用をさげ、作用性の異なる他の薬剤と組み合わせる輪番で使用してください。
- トマト、ミニトマトに使用する場合、果実に汚れを生じるおそれがあるので十分注意してください。
- 空袋は圃場等に放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

### ■毒 害

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

### ■水産動植物への注意

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

### ■安全使用上の注意



- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けてください。

●本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。



●散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。

●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。



●かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。

●夏期高温時の使用をさけてください。

#### ■貯蔵上の注意

●密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に保管してください。

本資料の記載内容は2024年7月25日現在の登録内容に基づいています。